

令和元年度N I E実践報告

鹿児島県立指宿高等学校

1 目 標

新聞活用の活用を通して、情報リテラシーの涵養を図り、探究的な見方・考え方を働かせ、自己の在り方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質と能力の育成を目指す。

2 育成を目指す資質・能力

- (1) 情報を正確に読み解く「読解力」
- (2) 情報を幅広く収集し、多面的に理解し編集する力
- (3) 地域や社会に興味・関心を持ち、課題を発見し解決しようとする態度
- (4) 自己を取り巻く環境と自己の生き方を結びつけ、探究し続けようとする態度

3 実践報告

(1) 金曜日「朝コラム」の時間の活用

① 概要

本校では、従来からN I E実践として、毎週金曜日のSHR前の10分間に「朝コラム」の時間を設けている。「朝コラム」とは、選択された社説や新聞コラムを読み、文章要約や自らの考えをまとめる活動である。実施方法は次の通りである。①小論文指導の担当教諭が当番制で記事を選択してワークシートを作成する。②学級担任は、生徒の要約や記述を確認してコメントを記入して生徒にフィードバックを返す。

(実践例)

分野	テーマ	引用
環境	プラスチックゴミ廃棄の問題	『熊本日日新聞』「社説」2019/5/18
保健	「ゲーム障害」の依存症認定	『東奥日報社』「天地人」2019/5/31
経済	「人生100年時代」と資産形成	『熊本日日新聞』「社説」2019/6/9
環境	人間の活動と特定外来生物	『上毛新聞』「三山春秋」2019/6/9
共生	在留外国人と「日本語教育推進法」	『山陽新聞』「社説」2019/7/3
技術	A Iと「信用スコア」	『京都新聞』「凡語」2019/08/30
防災	台風と電柱の地中化	『信濃毎日新聞』「斜面」2019/9/13

② 課題意識

昨今、実用的な文章やグラフを読み取る「読解力」の養成が求められている。一方で、近年のSNSや動画サイトの普及によって、論理的にまとめられた文章を高校生

が読む機会は減少傾向にある。本校でも、入試改革の影響や入試方式の多様化の中で、生徒の「読解力」を養成することは喫緊の課題となっている。以上のような理由から、本校では「朝コラム」を通して週に1回、社説や新聞コラムに触れる機会を設けてきた。しかし、記事の十分な読解が行われなまま感想文を記入するケースも多く、十分に活用できていないという課題が見られた。

③ 実践と成果

そこで、本年度は生徒が記事の構造をふまえて論点を読み取ることができるように、はじめから要約や感想に臨ませるのではなく、段階的な問いを設定して取り組ませることにした。以下はその例である。

(例1) 人間の活動と特定外来生物 (『上毛新聞』「三山春秋」2019/6/9)

Q1 クビアカツヤカミキリが人にとって「嫌われ者」であるのは、群馬県東毛地方でどのような被害が出たからか。具体的に答えよ。

Q2 外来生物であるクビアカツヤカミキリが日本に侵入した経緯として、どのように推察されているか。

Q3 上記を踏まえて、館林市の撲滅プロジェクトについてのあなたの考えを100字以内で論じなさい。

(例2) 「人生100年時代」と資産形成 (『熊本日日新聞』「社説」2019/6/9)

Q1 金融審議会の報告書では、どのような試算が報告されたか。具体的な数字を用いて答えよ

Q2 本文では、今回の報告が世論の反発を呼んだのはなぜだと述べられているか。

Q3 「人生100年時代」に向けてあなた自身はどのように備えるべきだと考えるか。100字以内で書け。

以上の問いの設定によって、多くの生徒が、記事を丁寧に読み込み、内容を踏まえた意見を書くようになった。また、生徒の中には、(例1)の問いを踏まえ、「人間の経済活動に被害を及ぼすと『嫌われ者』とされること」と「人間の経済活動に伴って日本に侵入したこと」の矛盾点を指摘する意見を述べたり、(例2)の問いを踏まえ、具体的な数字を用いながら「反発を呼んだ理由」を説明したりする者もいた。

(2) 2学年「総合的な学習の時間」における活用

① 概要

本校2年生は、総合的な学習の時間に自身で設定したテーマに基づいて「I-style(課題研究)」を行っている。火曜7限の時間に課題テーマごとに5つのゼミ(経済・共生・

インフラ・医療・環境と技術)に分かれて活動してきた。

③ 課題

昨今、SDGsに示される世界的な社会問題や人口減少社会における地域課題など、多様な課題が社会的関心となっている。同時に、「総合的な学習(探究)の時間」や地域課題解決や課題研究に関するコンテストなどにおいて、高校生が関心を持ち調査や探究を行う機会も増えつつある。しかし、日頃から社会問題に関心がない生徒にとっては、課題研究のテーマ設定を行うことが難しいということが従来の課題であった。

③ 実践と成果

そこで、生徒の社会問題への関心を高めるために、以下の2つの実践を行った。

(ア) NIEスペースの設置

空き教室に新聞を並べ、記事の切り抜きを行うスペースを設置した。生徒は記事を活用して「I-style(課題研究)」のテーマを設定したり、研究テーマに関連づけて情報収集を行ったりして探究を深めることができた。

(イ) 新聞スクラップノートの作成

先述した5つのゼミ(経済・共生・インフラ・医療・環境と技術)ごとにスクラップノートを作成し、当番制にして記事のスクラップを行った。生徒は記事について80字の要約を行い、担当教諭はコメントを添えて返却した。スクラップ記事は、ゼミの議論や自身の課題研究の資料として活用することができた。

(研究テーマの例)

ゼミ	研究テーマ
共生	観光まちづくりについて～鹿児島から海外へ～
共生	都市部と地方の独居老人についての比較
経済	これからの私たちの外国人に対する理解と対応
共生	未来への不安～待機児童～
インフラ	心理の観点から学ぶ防災・減災
インフラ	空き家の改修とこれからの建築に求められるもの
環境	環境問題と生物の多様性の関わり
医療	認知症予防～ライフスタイルに鍵がある?!～

新聞活用の成果として、生徒が設定したテーマに次のような傾向が見られた。従来は、環境・国際問題のような世界的課題をインターネットや文献を用いて調べる生徒が多かったが、新聞の活用によって、地域課題に関するテーマ設定が増え、実際にインタビュー調査を行うなど1次データを収集する生徒も増えた。また、世界的課題に関しても、地域社会などに結びつけて探究し、課題の当事者としての視点を持つことができた。

4 考察

「読解力」の養成や探究学習において、最新かつ多様な分野の記事を得られる新聞の魅力は大きい。さらに、新書や論評に比べて、新聞記事は書き手の「主張」ではなく客観性の高い「事実(事象)」や「論点」を中心に記述しているため、高校生が自身の考えを構成するための余地と素材を与える。今後も、生徒自身が問いや仮説を立てたり、論理的な道筋を組み立てたりするための思考力を涵養するために、新聞活用の習慣や技法を日常的に身に付けさせる仕掛けを学習活動の中に設定していきたい。

